



2026年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年10月10日

上場会社名 株式会社 銚子丸 上場取引所 東
コード番号 3075 URL <https://www.choushimaru.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）石井 憲
問合せ先責任者 （役職名）管理部長 （氏名）菱沼 孝弘 TEL 043-350-1266
半期報告書提出予定日 2025年10月10日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 無
決算説明会開催の有無： 有 （機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年2月期第2四半期（中間期）の業績（2025年3月1日～2025年8月31日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年2月期中間期	11,615	—	986	—	1,001	—	548	—
2025年2月期中間期	10,689	5.1	618	△32.1	628	△31.8	261	△54.3

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年2月期中間期	43.87	43.75
2025年2月期中間期	19.05	18.98

（注）当社は、前事業年度より決算日を5月15日から2月末日に変更しております。これに伴い、当中間会計期間（2025年3月1日から2025年8月31日）と比較対象となる前中間会計期間（2024年5月16日から2024年11月15日）の期間が異なるため、対前年中間期増減率については記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年2月期中間期	11,717	8,291	70.5	660.75
2025年2月期	10,798	7,870	72.6	628.01

（参考）自己資本 2026年2月期中間期 8,259百万円 2025年2月期 7,841百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年2月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2026年2月期	—	0.00	—	—	—
2026年2月期（予想）	—	—	—	12.00	12.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年2月期の業績予想（2025年3月1日～2026年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,263	—	1,445	—	1,461	—	911	—	73.03

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

2. 2025年2月期は決算期変更により変則的な決算となっております。このため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 中間財務諸表及び主な注記 (4) 中間財務諸表に関する注記事項 (中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年2月期中間期	14,518,000株	2025年2月期	14,518,000株
② 期末自己株式数	2026年2月期中間期	2,018,113株	2025年2月期	2,031,463株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年2月期中間期	12,491,395株	2025年2月期中間期	13,728,315株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社は2025年10月16日に機関投資家、証券アナリスト向けの決算説明会をオンラインにて開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社は、前事業年度より決算日を5月15日から2月末日に変更しております。これに伴い、当中間会計期間(2025年3月1日から2025年8月31日)と比較対象となる前中間会計期間(2024年5月16日から2024年11月15日)の期間が異なるため、前年同期との比較については記載しておりません。

当中間会計期間における我が国の経済は、雇用や所得環境の改善が続く中で、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米国の関税政策等の影響による景気後退懸念や、物価上昇による消費者マインドの下振れリスクも高まっており、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、個人消費の回復とともに価格改定の動きが活発化し、業界全体は堅調に推移しました。一方で、原材料やエネルギー価格の高騰、労働力不足や人件費の上昇、物価高騰による消費者の節約志向の高まりなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社は、「お客さまに真心を提供し、感謝と喜びをいただく」ことを理念に、中期的経営課題に対する重点施策に取り組んでまいりました。

(課題① 既存業態の徹底的な磨き上げ)

すし銚子丸の強みである「職人の握る寿司」「本まぐろ」「光物」「目利き」「おもてなしの舞台」を磨き上げるとともに、お客様にとってより魅力的な商品の開発をすすめてまいりました。

「生本まぐろ」の解体ショーを全店舗同時開催するとともに、まぐろを丸ごと1本仕入れるからこそ提供できる希少部位メニューなど、すし職人のいる銚子丸ならではの活気あるパフォーマンスとともに、切りたて・握りたてのすしをご提供してまいりました。

6月にグランドメニューをリニューアルし新メニューを展開するとともに、季節感を打ち出したイベント商品や店舗独自のおすすめメニューと組み合わせることで選びやすい商品構成といたしました。

また、「本まぐろ祭」、「九州うまかもん食比べ」などシーズナブルのイベントを充実させ、人気ネタをお値打ち価格でご提供いたしました。特に、「夏の千葉 海の恵み紀行」イベントはお客様のご好評を頂き好調に推移いたしました。

(課題② 出店と新業態開発)

重点出店エリアである神奈川県7店舗目となる二俣川店(2025年6月 神奈川県横浜市)を新規出店いたしました。また、お客様に快適な環境をご提供するとともに、オペレーションの効率化を目的として2店舗の大規模改装を実施いたしました。(2025年6月 多摩ニュータウン店、同年7月 市原店)これにより、当中間会計期間末の店舗数は92店舗となりました。

(課題③ DX推進)

レジに並ばずにテーブルでお会計のできるテーブル決済機能を銚子丸公式の「縁アプリ」へ追加することで、お客様の利便性の向上を図るとともに、「縁アプリ」の機能を通じて、お気に入り登録店舗からお客様へおすすめ商品やキャンペーン、イベント情報などのご案内を直接行うことで集客アップを図ってまいりました。

また、社内各種システムとアプリ会員データを有機的に結合することで、運営オペレーションを効率化させるための統合基盤開発を計画に沿ってすすめております。

(課題④ 人財の確保)

新規採用・中途採用の強化、キャリアデベロップメントプログラムと新たな評価制度の構築をすすめるとともに、女性活躍推進のための環境整備など人財強化施策をすすめてまいりました。また、3日間連続の店舗休業日を設けることで従業員のリフレッシュを図るとともに、お客様へより良いサービスを提供できる体制を整えてまいりました。

(課題⑤ 米国市場における新たな価値創造)

2025年度中のカリフォルニア州への1号店出店へ向けて、業態開発と開業準備を着実にすすめてまいりました。

これらの結果、当中間会計期間の売上高は、116億15百万円、営業利益は9億86百万円、経常利益は10億1百万円、中間純利益は5億48百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の概況

(資産)

当中間会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ9億18百万円増加し、117億17百万円(前事業年度末比8.5%増)となりました。主な内訳は、次のとおりであります。

流動資産は、8億16百万円増加し、65億59百万円(同14.2%増)となりました。これは主に、現金及び預金の増加4億23百万円、売掛金の増加3億74百万円によるものであります。

固定資産は、1億2百万円増加し、51億58百万円(同2.0%増)となりました。これは主に、建物(純額)の増

加35百万円、投資その他の資産の増加32百万円によるものであります。

（負債・純資産）

当中間会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ4億97百万円増加し、34億25百万円（前事業年度末比17.0%増）となりました。主な内訳は次のとおりであります。

流動負債は、4億99百万円増加し、30億51百万円（同19.6%増）となりました。これは主に、未払法人税等の増加3億11百万円、買掛金の増加1億47百万円によるものであります。

固定負債は2百万円減少し、3億74百万円（同0.7%減）となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ4億21百万円増加し、82億91百万円（同5.4%増）となりました。これは主に、利益剰余金の増加3億98百万円であります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、44億27百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは12億90百万円の収入となりました。これは主に税引前中間純利益8億59百万円、減価償却費2億85百万円、減損損失1億42百万円の計上によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは5億68百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出4億42百万円、無形固定資産の取得による支出1億1百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは2億97百万円の支出となりました。これは主に短期借入金の純減1億50百万円、配当金の支払1億50百万円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月期の業績予想につきましては、2025年4月24日に公表した業績予想から変更はございません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当中間会計期間 (2025年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,410,638	4,834,624
売掛金	677,964	1,052,833
原材料及び貯蔵品	381,729	413,824
その他	272,422	258,204
流動資産合計	5,742,755	6,559,485
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	1,873,726	1,909,213
工具、器具及び備品 (純額)	721,179	706,093
その他 (純額)	128,024	147,202
有形固定資産合計	2,722,929	2,762,509
無形固定資産	597,768	627,536
投資その他の資産		
関係会社株式	306,702	306,702
繰延税金資産	389,452	389,452
敷金及び保証金	861,835	866,659
その他	177,329	205,249
投資その他の資産合計	1,735,318	1,768,063
固定資産合計	5,056,017	5,158,110
資産合計	10,798,772	11,717,595
負債の部		
流動負債		
買掛金	613,656	761,397
短期借入金	480,000	330,000
未払金	1,155,989	1,258,981
未払法人税等	—	311,707
賞与引当金	60,900	78,431
株主優待引当金	35,472	30,890
ポイント引当金	10,409	11,714
その他	194,762	268,001
流動負債合計	2,551,189	3,051,123
固定負債		
リース債務	11,908	10,320
資産除去債務	356,402	355,408
その他	9,000	9,000
固定負債合計	377,310	374,728
負債合計	2,928,500	3,425,852

（単位：千円）

	前事業年度 (2025年2月28日)	当中間会計期間 (2025年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	490,954	493,616
利益剰余金	9,796,842	10,195,017
自己株式	△2,546,103	△2,529,371
株主資本合計	7,841,693	8,259,262
新株予約権	28,578	32,481
純資産合計	7,870,272	8,291,743
負債純資産合計	10,798,772	11,717,595

（2）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2024年5月16日 至 2024年11月15日）	当中間会計期間 （自 2025年3月1日 至 2025年8月31日）
売上高	10,689,638	11,615,856
売上原価	4,127,437	4,559,249
売上総利益	6,562,200	7,056,607
販売費及び一般管理費	5,943,689	6,070,518
営業利益	618,511	986,088
営業外収益		
受取利息	1,180	4,694
協賛金収入	3,214	3,156
仕入割引	2,002	2,071
その他	5,010	7,624
営業外収益合計	11,406	17,546
営業外費用		
支払利息	1,100	1,421
その他	50	219
営業外費用合計	1,150	1,640
経常利益	628,767	1,001,994
特別利益		
固定資産売却益	5	—
新株予約権戻入益	351	114
特別利益合計	356	114
特別損失		
固定資産売却損	1,402	—
固定資産除却損	11,336	102
減損損失	199,888	142,946
特別損失合計	212,627	143,049
税引前中間純利益	416,496	859,060
法人税等	154,948	311,046
中間純利益	261,548	548,013

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年5月16日 至 2024年11月15日)	当中間会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	416,496	859,060
減価償却費	247,091	285,441
減損損失	199,888	142,946
株式報酬費用	9,892	11,988
新株予約権戻入益	△351	△114
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	11,594	9,078
賞与引当金の増減額 (△は減少)	88,810	17,531
受取利息	△1,180	△4,694
支払利息	1,100	1,421
有形固定資産売却損益 (△は益)	1,397	—
固定資産除却損	11,336	102
売上債権の増減額 (△は増加)	106,387	△374,868
棚卸資産の増減額 (△は増加)	16,272	△32,094
仕入債務の増減額 (△は減少)	△82,274	147,741
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△102,058	103,265
その他	△50,742	69,901
小計	873,661	1,236,706
利息及び配当金の受取額	638	3,816
利息の支払額	△1,171	△1,390
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△452,604	50,894
営業活動によるキャッシュ・フロー	420,524	1,290,027
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△384,246	△316,453
定期預金の払戻による収入	384,240	316,386
有形固定資産の取得による支出	△452,709	△442,714
有形固定資産の売却による収入	5,349	—
無形固定資産の取得による支出	△175,660	△101,530
敷金及び保証金の差入による支出	△10,267	△24,172
敷金及び保証金の回収による収入	357	200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△632,937	△568,282
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	222,000	△150,000
リース債務の返済による支出	—	△1,325
ストックオプションの行使による収入	2,808	3,798
配当金の支払額	△163,578	△150,297
財務活動によるキャッシュ・フロー	61,230	△297,825
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△151,183	423,919
現金及び現金同等物の期首残高	6,178,351	4,003,105
現金及び現金同等物の中間期末残高	6,027,168	4,427,024

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、寿司事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。